

研究課題	9月前半どり作型における有望ネギ品種の検討
背景・ねらい	本市において、ネギはJA全農ブランド「やわ肌ねぎ」として、新潟市食と花の銘産品に位置付けられ、沿岸部砂丘地帯を中心に盛んに生産されている。夏どり作型においては、夏季の高温による襟裂けや、軟腐病の発生等による品質の低下が懸念されており、耐暑性に優れる有望な品種の選定が期待されている。
担当者名	野口久弥, 三浦雅子, 葛西正則
研究期間	2020年～(2年)

1 目的

9月前半どり作型において、品種ごとの特性について明らかにし、本市における適切な品種を検討する。

2 方法

(1) 試験場所：露地圃場 砂土

(2) 試験区の構成・規模

ア 試験区の構成

要因	水準数	水準の内容
品種	7	夏扇パワー※(サカタ), 試交番号 THN160(トーホク), 名月一文字(タキイ), 夏の宝山(みかど協和), 大地の響き, 森の奏で(トキタ), 夏山一本太(中原採種)

※=基準品種(対照区)

イ 規模：1区36株(1m)・2反復

(3) 耕種概要

ア 播種・定植：チェーンポット CP303・264穴 1月16日播種 2粒播き
無加温(発芽までは温床+トンネル) 4月6日定植

イ 栽植様式：36,000株/10a=畝幅100cm, 株間36株/m

ウ 施肥：基肥(kg/10a) N-P₂O₅-K₂O=0-10-0, 堆肥施用 もみがら堆肥 2.0t/10a
追肥 N-P₂O₅-K₂O=20.7-20.5-19.6

エ 土寄せ：5月7日, 6月1日, 6月21日, 7月9日, 7月26日,

オ 収穫：9月7日

カ 調査項目：収量・形質・生理障害・病害虫

3 結果の概要

(1) 栽培経過の概要

生育期前半の気象は概ね平年並みであったが、生育期後半の猛暑により生長点の伸長に停滞が見られた(図1)。7月以降アザミウマ、シロイチモジヨトウによる食害等が散見されたが、防除により大きな被害には至らなかった。収穫調査時に品種間差異はあるが軟腐病の発生が確認された。

(2) 生育調査

葉鞘の肥大性(調整後)は、夏扇パワーは最も大きく THN160 が次いで大きかった。一方で森の奏で、名月一文字は肥大性がやや劣った。葉鞘の伸長性(分岐長)は夏山一本太が最も優れ、次いで夏扇パワーが優れていた。夏の宝山、名月一文字は伸長性がやや劣ったが、夏ねぎの規格としては十分な長さを確保できていた。葉身長は大地の響き、夏扇パワーが長く、THN160、名月一文字は短かった(表1, 2)。

(3) 収穫調査

夏扇パワーは2Lの本数が最も多く、THN160 が次いで多かった。一方で名月一文字、森の奏で、夏山一本太ではM品が散見された。えり裂けは、夏扇パワー、夏の宝山で少なく、夏

山一本太，大地の響き，THN160 で多い傾向であった．一方で夏扇パワー，夏の宝山，夏山一本太は軟腐病による減収が大きく，森の奏で，大地の響きでは軟腐病の発生が認められなかった（表3）．

4 考察

本年の試験では，8月前半の猛暑のためか地上部が扇型になり，結果えり部に負荷がかかり裂けているような株が多く見受けられた．夏扇パワーでえり裂けが少なかったのは，生育が早いいため，収穫のタイミングまでに猛暑のダメージから回復していたのではないかと推察される（収穫調整時の達観）．一方で本品種は軟腐病による減収も大きかった．夏の宝山，夏山一本太は昨年同様に軟腐病の発生が多い傾向であった．大地の響き，森の奏では昨年より軟腐病の発生は少なく収量も安定していた．

5 2年間のまとめ

2年間の試験を通して，基準品種である夏扇パワーは現地の主力品種なだけあり葉鞘の伸長性・肥大性が非常に良かった．ただし，収穫時期によってはえり裂けや軟腐病による減収も見受けられた．新品種のTHN160は，葉鞘の伸長性・肥大性が夏扇パワーよりも若干大人しめで，地上部がコンパクトで作業性もよく，葉折れへの耐性も期待できるが，収穫時期によってはえり裂けが多発することもあった．えり裂けの発生については，年次や収穫期によって各品種バラツキがあったが，全体を通じて安定して少なかったのは森の奏でだった．本品種は軟腐病の発生も少ないので，サイズはやや落ちるが生産が安定しづらい本作型において，選択肢の一つになり得ると考えられる（表4）．

表1 株別生育調査(9月7日，収穫調整前)

品種名	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	葉身長 (cm)
夏扇パワー	22.5	91.6	5.5	54.7
THN160	22.1 **	83.6 **	6.0	48.5 **
名月一文字	21.0	83.7 **	6.3 **	50.1
夏の宝山	21.0	81.6 **	5.2	48.6 **
大地の響き	21.5	92.9	4.9 *	56.7
森の奏で	22.1	85.5 **	5.8	49.2
夏山一本太	22.3	88.8	5.3	49.4

Dunnet 法 (≠夏扇パワー)

**および*はそれぞれ 1%および 5%で有意差あり

表2 株別生育調査(9月7日，収穫調整後)

品種名	葉鞘径 (mm)	分岐長 (cm)	第3葉鞘長 (cm)	えり形 (1~3) ※ ₁
夏扇パワー	19.6	37.0	36.5	2.3
THN160	19.4	35.1	34.0 **	1.8 **
名月一文字	18.0 **	33.6 **	32.9 **	1.9 **
夏の宝山	18.6	33.0 **	32.2 **	1.6 **
大地の響き	18.7	36.1	35.7	2.1
森の奏で	17.8 **	36.3	35.3	2.3
夏山一本太	19.2	39.4 **	39.0 **	1.1 **

※₁ えり首の葉鞘に対しての角度．小さいほど水平に近い

**および*はそれぞれ 1%および 5%で有意差あり

表3 収量調査(9月7日収穫)

品種名	定植本数 (本/m)	規格別内訳(本/m) ※ ₂						L以上収量 (本/m)	L以上生存率 (%)	えり裂け発生率 (%)	軟腐病発生率 (%)
		2L	L	M	S	くず	計				
夏扇パワー	36.0	13.0	15.0	0.5	0.0	1.0	29.5	28.0	77.8%	21.4%	23.2%
THN160	36.0	10.5	21.0	0.0	0.0	0.0	31.5	31.5	87.5%	47.6%	1.6%
名月一文字	36.0	6.5	24.5	3.5	0.0	0.0	34.5	31.0	86.1%	39.1%	4.3%
夏の宝山	36.0	9.0	13.5	0.5	2.0	1.0	26.0	22.5	62.5%	20.0%	32.0%
大地の響き	36.0	9.0	26.5	0.0	0.5	0.0	36.0	35.5	98.6%	44.4%	0.0%
森の奏で	36.0	2.0	29.5	2.0	0.5	0.0	34.0	31.5	87.5%	33.8%	0.0%
夏山一本太	36.0	7.5	15.0	1.5	0.0	0.0	24.0	22.5	62.5%	47.9%	10.4%

※₂ 新潟県青果物出荷規格基準にもとづき，25-20mm=2L，19.9-15mm=L，14.9-13mm=M，12.9-10mm=S，10mm未満≠くずとカウントした

表4 2年間の総合評価

品種名	供試の有無		葉鞘の伸長性	葉鞘の肥大性	葉身長	軟腐病	えり裂け	えりの形	収量性	総合評価
	1年目	2年目								
夏扇パワー	基準	基準	長	極大	やや長	やや弱	やや多	0.0	やや多	○
森の奏で	有	有	並	やや小	並	強	やや少	2.2	多	○
大地の響き	有	有	並	やや大	並	強	やや多	2.1	多	○
THN160	有	有	やや短	大	短	やや強	やや多	1.9	やや多	○
名月一文字	無	有	やや短	やや小	やや短	並	並	1.9	並	△
夏山一本太	有	有	長	やや大	並	弱	並	1.3	やや少	△
夏扇4号	有	無	やや短	並	長	やや弱	やや多	2.0	並	△
夏の宝山	有	有	やや短	大	短	弱	並	1.8	やや少	▲
龍美	有	無	極長	小	長	弱	多	2.4	少	×



図1 左：生長点の伸長が停滞した株
 右：正常な株
 今年は全体的に左のような株が多かった